

第10回 南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

令和3年6月28日(月)

午後2時00分～午後4時30分

南魚沼市役所 本庁舎 大会議室

参加者

【推進会議委員】(50音順)

青柳 一博委員、大谷 一人委員、熊倉 浩靖委員長、佐藤 浩幸委員、関 聡副委員長、中島 博委員、羽吹 忍委員、樋口 昌敏委員、マクレラン 牧子委員、矢口 愛委員 以上10名

(欠席：岩佐 十良委員、須藤 彰芳委員)

【南魚沼市】

林市長、石田総務部長、平賀市民生活部長、腰越産業振興部長、南雲建設部長、片桐教育部長、佐藤市民病院事務部長、内藤上下水道部長、若井消防長、若井U&Iときめき課長、西潟生涯スポーツ課長

(欠席：南雲福祉保健部長)

事務局(企画政策課)：高橋企画政策課長、須藤主幹、見留主幹、平松主事

1.開会

(進行:高橋企画政策課長)

2.市長挨拶

委員の皆さん、本日は大変お忙しいところ、第10回南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議ということでご参集いただきましたこと、大変ありがとうございます。日頃大変お世話になっております。

今ほど目的、趣旨については担当の課長から話があったとおりでありますが、皆さんのご協力のおかげで、何とか地方創生推進交付金等を活用させていただき、南魚沼市はまちづくりを進めさせていただいております。

こういった交付金を活用した取り組みが、本市としてはいろいろな人を呼び込もうと思って、先駆的な事業に取り組み、国に認めて頂いたりして進めてきたところでありましたが、なかなか助走は大変な時期が続いていました。しかし、ようやくここにきて、いろんな意味で物事が前に進んで動くかなというところで、このコロナ渦であります。なかなか厳しいものだと思いつつやっているとありますが、ただ非常に芽が出てきていると思っております。

地元のご出身で、一部上場の企業を立ち上げられた、私どもの先輩になる松井利夫様という方がいらっしゃいます。株式会社アルプス技研という、非常に優秀な工業関係を中心とした人材派遣をやっておられる会社を立ち上げた方ですが、昨年なんと驚く3億円のご寄付があって、その後今年5月にはさらに追加で5億円のご寄付を頂きました。これは逆に言うと私どもはちょっと足が震える思いがあります。これは本当にどういったことに使ったらよいのかと、その松井さんと話をしている中で、「趣旨から違えず、まちづくりの様々なことに向かって、ぜひチャレンジせ

よ」という大変力強く後ろから押されるような言葉を頂きました。これはこれまで皆さんと話をしてきた地方創生推進交付金とはまた別途な部分になるのですが、しかしながら底流で流れているものは全く一緒であり、こういった地域づくりのことに使わせていただこうと思っております。

コロナの話ばかりで聞きたくないと思いますが、やがてウィズコロナからポストコロナ、そしてアフターコロナ。おそらくはポストコロナの時代がしばらく続くのではないかと思いますけれども、今ワクチン接種の方も当市は非常に力を込めてやっております、県内でもトップレベルで接種率を上げていると思います。これらになぜ真剣に取り組むのかと言えば、なんと言っても明るみに転じてもらって、普段通りの生活、元気を持って、また前に向かっていける状況を作り上げていくということが間もなく展開できると思うからです。これを含めて本日の会議でまた皆さんから様々なご提案なりご指摘なりを頂き、またご検証頂いた点につきまして、これは歩みながら物事を進めていくということになろうかと思っておりますので、是非ともいろんな高い見地から厳しいお言葉も含めて頂ければと思っております。

何としても地方創生、屈してばかりはいられませんので、この助走が長かった分、フライトを始めたなら一気に安定する状況に持っていきたいと思っておりますので、是非ともまた皆さんからこれからも長いご関係をお願いしたいと思います。先ほど企画政策課長は言いにくかったと思いますが、ご異議がなければ次の任期も引き続き委員を務めていただきたいということをお願いしたかったのだろうと思っております、私もその通りであります。是非とも今後とも皆さんからご指導を引き続き賜りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

本日の会議がより良い時間となりますようお願いをさせていただきます、私からの冒頭のあいさつとさせていただきます。

本当に本日はありがとうございます。よろしく願いいたします。

資料及び出席委員の確認

(高橋企画政策課長)

・ 席順表と出席者名簿を記載した会議次第、資料 3-1、資料 3-2、資料 4（差し替え版）、『LIFE in』、『南魚沼酒語りハンドブック』の冊子、『MINAMIJONUMA SPORTS CREATORS』のパンフレット、委員の再任のお願いを当日配布し、配布された資料及び資料概要を説明

- ・ 出席、欠席委員の報告
- ・ 新任の青柳委員の紹介

(青柳委員)

青柳でございます。4月に赴任して参りました。前任の藤田が異動して、私が参りました。おかげ様をもちまして、私ども第四北越銀行も1月に無事合併することができました。合併にあたりましては、皆様方のご協力があったとのことだと思います。これからは合併の真価が問われてくると思いますが、この南魚沼市の発展に微力ながら貢献してまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

3.議題① 令和2年度地方創生推進交付金事業の効果検証について

(熊倉委員長)

事務局及び担当課の説明を聞いたうえで、各委員から意見と質問を伺う格好で議事を進めたい。

(企画政策課 見留企画主幹)

資料1及び資料2-1により事業の位置づけ、資料の見方を説明

資料2-1:「住まう喜びを感じるまち 南魚沼」実現プロジェクト

(若井 U&I ときめき課長、腰越産業振興部長より説明)

(熊倉委員長)

委員の皆さんからの意見を聞く前に事実確認をさせてください。

1 ページの KPI について、CCRC 施設等への移住者の増ですが、これは転入者数と見ればいいですか。転入転出を計算した純増数ですか。

(若井 U&I ときめき課長)

市民課で実際に移住された方にアンケートを実施しまして、純増ではなくて移住者からのアンケートを集計しました。

(熊倉委員長)

そうすると、全体として増えたかどうかということとはわからないのですね。

同じく KPI の事業所の増加件数も純増ではなくて企業・創業されたものの数ですね。

(腰越産業振興部長)

こちらの 12 件については、これは聞き取りという形で調査をしており、浦佐地域周辺の実際に個人的に創業された方たちの純増です。ただし、廃業等との相殺はしていません。

(熊倉委員長)

移住者数は純増でこれだけ上がるとすごいですけど、なかなか厳しいですね。

では、以上の説明を踏まえた上で、委員それぞれからご意見・ご質問を受けていきたいと思えます。まず U&I ときめき課の CCRC 施設を中心とした移住定住の部分へのご意見等を受けたいと思えます。青柳委員よりお願いします。

(青柳委員)

的を外していたら大変恐縮ですが、移住につきまして、私は思ったよりも多くいらっしまったのだなというのが率直な意見です。そういう意味では、この移住された方は、どういったところがストロングポイントで移住されたのかを、もしお分かりになれば教えていただきたいです。

(若井 U&I ときめき課長)

アンケートを見ると職業の関係で移住された方がほとんどです。その他は、知り合いがこの地域にいて、その方から情報を得て移住された方もいらっしまいましたが、職の関係が一番多いと思えます。

(熊倉委員長)

ということは、他の地域の方が求めるような職場、職業があるということですね。その職場、職業は主としてどのようなものですか。

(若井 U&I ときめき課長)

この地域はどうしてもサービス業系が多いですので、特に観光や飲食の関係で移住された方が多いかなという感じを受けます。

(青柳委員)

例えばですが、2ページのJ行に目標未達だった場合の理由として、新型コロナの影響でお試し居住が実施できなかった、また、飲食業界の異常な不況により、新規創業の件数が伸びなかったとあります。しかし、先の話で職をストロングポイントとすると、飲食業の不況で新規の創業が伸びなかったという部分で相関があまり感じられません。これはどういう意味で捉えたらよろしいでしょうか。

(若井 U&I ときめき課長)

令和元年度から令和2年度に関しては、どうしてもコロナの影響が出て、青柳委員のおっしゃるとおり相関がないように感じます。ただ、平成28年度からずっと均してみると、やはり観光や飲食の関係でこちらに移住された方が多いという感じを受けます。

(熊倉委員長)

それらはアンケート集計結果として残っていますか。

(若井 U&I ときめき課長)

はい、残っています。

(熊倉委員長)

ぜひ、それは大切な資源としてください。

観光業や飲食業等の職を求めて移住された方が多いということでした。では、長くここで実際に観光業に携わっていたり、あるいは移住定住のことを含めて仕事をなさっている矢口委員とマクレラン委員に実感としてその辺評価できるかどうか厳しい意見も含めて伺おうと思います。

まず矢口委員からお願いします。

(矢口委員)

今このコロナ渦で2年シーズンが過ぎましたが、次もう1年続くと民宿や飲食店の3分の1くらいが潰れるのではないかなという状況ですので、移住が伸びるとは考えにくいかなと私自身は思いました。以上です。

(マクレラン委員)

先ほど LIFE in の冊子を見ていまして、定住ではなくてパートタイムレジデンスみたいな形でもっと売り込んでいいのではないかと思いました。これからコロナが完全にもとの状態に戻るとは思いませんが、レンタルオフィスやコワーキングスペースとか、そういうものをもう少し PR すべきだと思います。実際にそれらを知らない人は多いと思います。

うちの近所にも SONY の本社で働く方がいらっちゃって、1か月に何日か本社に戻るので、8割方実家でリモートで働き、当時実家に光回線がなかったので工事をして働いていました。こういった方にもっと PR して、令和3年度、令和4年度はおそらくコロナの影響が続くと思いますので、定住でなくてもパートタイムレジデンスみたいな形で民宿やホテルの整備をして、働いている様々な年代の人たちを取り込むプランをしてもいいのではないかと思いました。

(若井 U&I ときめき課長)

まさに、今後はそのようなことをしたいと思っています。今回令和3年度につきましては、

リモートワークの推進ということで、これをメインにかかげておまして、これは後ほど説明させていただきますと思います。

(熊倉委員長)

先ほど矢口委員がおっしゃった実際に民宿業や旅館業をなさっている方の業態が守られるように、少し大胆な考え方をしてください。おそらく、楽しみに来るのではなくて、仕事をするために人々がマルチハビテーション型に動いてくる。あと企業自体が動いてくるということを促せるような形をしていただくといいのかなと思いました。

同じ視点で羽吹委員いかがですか。

(羽吹委員)

このコロナ渦で、移住した方が175人いたのは多いのかなと思います。特にお試し居住が全くない中で増えているということは、それだけ南魚沼市に魅力があったのかなと思うわけです。ただ、Uターンで来られた方というのはもともとここに住んでいたわけだから、何らかの事情があって戻ってきたのか、それとも本当にここで何かをやりたくて戻ってきたのか。また、Iターンの方は本当に魅力があってこっちに来たのか。その辺がアンケートで内容が分かっているのかどうかを知りたいです。

それから、起業や創業をした方が12件というのは、移住してきた方が起業したのか、もともとこちらにいる方が起業したのか。その関係はどうなのかなと思いました。

ほんとに魅力があって来た方の意見をいろいろ聞いて、またそれをどんどん発展するのもひとつの方法なのかなと思いますが、その辺もお聞かせいただきたいと思います。

(若井U&Iときめき課長)

申し訳ございません。アンケートを細かく分析して本日持ってきていないため、後ほど分析させていただきます。事業の参考にさせていただきますと思います。

(熊倉委員長)

では、まとめましたら簡単に結論だけでも各委員にアンケート結果を回章してください。

(腰越産業振興部長)

1点補足ですが、12件の起業や創業の中身は、全てが移住者ということではありません。ただし、こちらに来て古い建物をリノベーションして小さな宿を営むとか、音楽家の方が来られるとか、そういう起業もございまして、これはミックスであると捉えていただきたいと思います。

(熊倉委員長)

働き場の場、暮らしの場と合わせて新しい人々の動きを作れるかどうかというふうにご考えましょう。

大谷委員、鉄道関係ではこの辺り何か影響はありましたか。

(大谷委員)

鉄道ということになりますと、通勤や通学の関係は、だいぶ今はコロナの影響も収まって、ほぼ例年並みに戻ってきております。ただやはり、主に首都圏からの往来が非常に少ない状況が続いています。ですので、厳しくはあるのですが、逆に言うところのコロナを経験して、自分が住んでいるところ、生まれ育って、家族がいて、知り合いがいて、友達がいるという地域をどのように見つめるかという考え方は、変わったのかなという気がしています。

例えば新潟県内の感染状況がこうだったとか、東京はこんなになっているとか、どこの地域の人はなかなか会いにくいということはみんな初めて経験した中で、では自分が住んでいる地域はどうなんだろう、みんながみんなの生活を守るってどういうことなんだろうということを、知らず知らずと考えさせられた時だったのかなと思います。その地域に対する住民の想いというもの、ある意味今回のことで考え直せるいい機会だったのかなという気がしています。

一方、コロナ渦で新聞やテレビを見ますと、ある月は東京の人口が減ったと大騒ぎしたり、田舎に会社を全部移転したり、スタッフ全員をリモートワークにしたりとか、そういったものばかりクローズアップされています。そこで、移住者 175 人という数字を見ると、先ほどもお話がありました、やはりこういう時はごみごみした都会ではなく、きれいな田舎に行き住みたいと思う人がいて、移住してくれているのかな、その中で南魚沼市が選ばれているのかなというふうに、皆さんよく考えてしまうと思います。しかし、この数字の中身を聞くと、仕事の関係でこっちへ来たという受け身の人が多いし、軽井沢や四国とは違って、いの一に南魚沼市が首都圏からの移住に選ばれているのではないというのは何となく心得てはいます。

また、意地悪な言い方をすると、都会に皆が集まらなくていい時代になっている中で、CCRC 等のビジネス関係というのは、千載一遇のチャンスだったという言い方もあるわけなので、それが実際にこの数字だったということは厳しい評価を受ける場合もあるかもしれません。

この事業が例え小さな芽だったとしても、それが良い方向に伸びているのか、悪い方向に伸びているのか、その辺の評価の感覚を皆さんと共有できたらいいなと思いました。

(熊倉委員長)

理念と実際の動きが今、合いつつあるかもしれない。そこに分析を十分にしておわせていく。マクレラン委員にご紹介いただいた例なんてその典型例だと思いますので、それを上手に誘導していくことを、令和 3 年度からの中で意識してください。ということをお大谷委員は遠回しに言ってくださったのだと思います。

樋口委員、北里大学の方はどうでしょうか。学生の動きを含めて遠隔事業が増えたり、人々の移住定住の動きとか、特に医療、看護の方々に対する様々な負担が増えている中でこういう数字をご覧になられてどうお考えになりますか。

(樋口委員)

コロナの関係で志願者については、全国の大学で平均 15 パーセント減だそうです。学生の数は変わりませんが、受験控えとか、首都圏の大学を敬遠して自宅から通えるような大学を志望するという動きがあります。我々も県外から学生を招いている部分がありますが、そういったところが少なくなっています。

コロナの関係でオンライン事業を急遽させていただきましたが、おかげさまで学内や南魚沼地域での感染が抑えられたということで、オンライン授業は 2 か月ほどで解消して段階的に対面授業へ移行し、今現在は対面をメインにやっているところであります。

医療従事者、看護師への偏見や差別が少し問題になった時期もありますが、学院に対してそういったことはありませんし、逆に親御さんから激励を頂きました。ですので、コロナの関係で看護師、臨床検査技師等の役割がクローズアップされているところがあるのかなと思います。

この資料の内容を拝見して感じることは皆さんと一緒になのですが、175 人という移住者の中身

がどんな形なのかということが非常に気になります。コロナ疎開とか東京を脱出するとか、そんなニュースがありましたので、そういった人数がどのくらいいるのか。湯沢町のマンションは非常に人が増えているというような話も聞きますので、そんなところも比較しながら、どういう形の移住者なのか非常に興味があるところだと思っております。

(熊倉委員長)

またアンケート分析が大変になりますけども、令和元年度までの人の動きと令和2年度とは違っているのか、周辺地域と比べてどういう数字が出ているのか、これをちょっとご検討ください。

中島委員、国際大学さんはいかがでしょう。

(中島委員)

本学は約8割の学生が留学生となっております、昨年は入国がほとんどできないという状況で、一時期は100%オンライン授業でやっておりました。現在は、かなり日本に入国できるようになりましたが、やはり一部日本に来られない学生さんもいらっしゃるの、ハイブリッド授業という形で、対面をやりながらビデオカメラで撮ったものをリモートで海外の学生さんと同時に授業を行っています。また、時差がありますので、基本的には午後から夕方、夜にかけての授業をハイブリッドで開催しております。ただ、この春学期6月で一応無事に終わりました、学内に感染者は全くでないという大変喜ばしい結果となっております。市の方でワクチン接種を邁進しているということなので、それを心待ちにしているという状況でございます。

こちらのKPIの移住者175人というのを見ると非常に多いという状況が見て取れます。これに対しての資料3ページ目の総合評価②というのは、E1からE9までの取り組みをし、コロナ禍のこの難しい状況において、これだけ創意工夫をされたところを見ますと、総合評価を①にしてもいいのかなと、これがなかったらもっと減っていたのではないかなと思うとそう感じます。

一方、総事業費について、果たしてこの26,742,960円の価値があったかどうかという別の方向から見ますと、この175の方がこれらの取り組みに少しでも影響を受けていたかどうかということも、ひとつKPIの評価の判断材料になると思います。逆に、175人がすべてこれらの取り組みに影響を受けているということであれば非常に素晴らしいかなと思います。その辺はいかがでしょう。

(熊倉委員長)

コストパフォーマンスがどうであったかというのはなかなか難しいですけど、市の内部の感想をお伺いします。

(若井U&Iときめき課長)

中島委員がおっしゃるとおり、事業を実施して直接そこに結びついたかというのは判断が難しいです。どうしても即効性のあるものはないので、これからもライフスタイル誌の発行ですとか、動画を使ったり、リモートを活用したりして地道にPRしていくしかないのかなと思います。

(中島委員)

先ほどの175の方に採られたというアンケートの項目の中に、これらの市の施策を知っていたり、参加したことはありますかという類の質問項目はなかったでしょうか。

(若井U&Iときめき課長)

直接これらの事業を知っていたかという項目はなかったです。基本的な年齢ですとか、何名で

移住されるとか、移住された理由とか、そういった項目です。

(熊倉委員長)

ぜひアンケートを有効に使って、今後移住定住の充実を図り、内容を深めていってください。

同じ県内等々での移住定住の実態に即して南魚沼はどうであったかということ、県の佐藤委員から少し補足いただけますか。

(佐藤委員)

申し訳ございません。県の他の状況を把握していないため、お答えできません。

(熊倉委員長)

では、この数字を見られてどう感じましたか。

(佐藤委員)

皆さんと同じように多いのかなという印象を受けました。中島委員からお話がありましたとおり、私も 175 人という数字に各事業がどれだけ響いているのかということ、どれが決め手となっているのかということを知りたいところです。またアンケートの結果等を私も拝見したいと思います。

(熊倉委員長)

県内の各市の移住定住の状況を調べていただければ、それと比較ができます。佐藤委員、時間がかかって結構でございますので、業務の中でお調べいただければ助かります。

今までの話ではこの 175 人にこだわっていますけど、全体の 5 か年間で 711 人という数字です、このトータルを含めてこれから比較を進めてほしいと思います。

(佐藤委員) ※会議終了後に回答いただいた内容

県で把握している各市町村の移住定住の状況は、非公表ということで集計をしているため、県庁本庁にも確認したが、公表はできないということでした。

(熊倉委員長)

では、ここまでのところのまとめを含めて、関副委員長どうですか

(関副委員長)

この 1 つめの事業は非常に大事なものだと思いますが、当初の CCRC 構想の推進というところからすると、方向性はだいぶ変わって終わったかなという気もしますし、これからの考え方もまた違う形になっていくと思います。その中で総合評価②をつけていいのかというところはありませんが、やはり地方で移住者が増えているというのはなかなかないことだと思います。104 人から始まって、89 人、164 人、179 人、175 人ということで比較的緩やかに右肩上がりであるのは、理由はどうあれすごいことだだと思います。その中で、私の会社に昨年 I ターンが 2 人、U ターンが 1 人、それぞれ家族を連れて来ました。青柳委員がおっしゃったとおり、残念ながら田舎のここの地域がストロングポイントで来たというのではなくて、やはり理由は、2 人の東京生まれ東京育ちの I ターンの方々は、奥さんが十日町と六日町で、南魚沼の私の会社を選んでこっちに帰ってきたということでした。しかし、東京と比べてこっちに住むことを選んだということです。東京にいるという選択肢もあったのだけど、コロナもあって余裕を持った暮らしがした

いということでこっちに帰ってきました。一方、Uターンの方は向こうで仕事についていけなく、田舎に戻ってきたいということで帰られたということで、やはり理由はそんなにポジティブではなく、ものすごくこの地域にストロングポイントがあってということではありませんでした。しかし、理由はともあれ帰ってくる人たちが多くなっているというのは、いいことだと思いますし、それに対する施策を打った方がいいのかと思います。

帰省バスをやった時に、アンケートを採ったら 80%の人がゆくゆくは帰ってきたいと言うんです。ただハローワークの調べだと、だいたい 35 歳までに帰ってきているのは、7%程度です。実際はかなりのギャップがあります。しかし、40 代くらいになって同窓会を開くと帰りたいと言う人は多いです。お父さん、お母さんが歳を取っていますから。そのとき皆が言うのは 600 万くらいの平均年収が、こっちへ来ると同じ業種で 300 何十万になってしまうということです。このことがすごくネックになってしまっているため、首都圏での年収の 7 掛けくらいの年収ベースの産業、企業を育成していかなければなりません。

また、新しく起業すると、利益率が大きく自分の取れる分は大きくなると思うので、その起業をどんどん促すということも大切です。いかに帰ってきたい人を帰ってこさせるか。そこにはやはり仕事というところが大きいのかなと思います。

私はトータルで言うと東京に住んでいた頃の方が今だに長いです。ですが、間違いなく、こっちである程度のお給料をもらって、東京に遊びに行くというスタイルの方が、人間として生きている感じがして、ものすごくいいというふうに本気で思っていますので、その部分を伝えていくというのがすごく大事かなと思っています。

(熊倉委員長)

とてもいいご意見を頂きました。今我々は大きな勘違いをしておりました。大都会で働いてここに遊びに来ると思っていた人が多いかもしれないですが、逆にここで暮らし働いて、時々大都会に遊びに行ってもいいかなという動きが出てきた。そして、2 地域居住が本当にできるようになって、こちらにだんだんと生活のウェイトが置かれて行くような方法を考えていきましょう。

CCRC は当初から方向性は変わりましたが、第 1 期の 5 年間で終わりました、第 2 期目の新しい事業のなかでは、幅広い意味で南魚沼に対する移住定住者を確保していくという方向へ見直していけばいいのではないのでしょうか。

ここまで起業部分やグローバル IT パークについて踏み込んで議論できていないのですが、このことについて特にご発言がある方はお願いしたいと思います。国際大学さんはこの辺り関わりが深いと思いますが、中島委員いかがでしょうか。

(中島委員)

グローバル IT パークさんにつきましては、本学の卒業した学生さんを就職先として何人か採用していただいているというところでお世話になっており、ありがたいと思っております。それ以外は私、詳しく存じ上げません。

(熊倉委員長)

ほかの委員の方でグローバル IT パークについてご意見、ご質問があれば挙手お願いいたします。マクレラン委員。

(マクレラン委員)

昨年、グローバル IT パークをお手伝いしまして、新潟の大きな催事に、私は現地へは行かず会議室の中で、スリランカの会社が開発したアプリを通じて通訳をしました。その新潟の会場ではいろんな会社や個人の方たちが見にいらして、グローバル IT パークはすごく頑張っていました。ですが、ちょっと別天地みたいに使われているところがあるみたいです。そこで、どうやったら日本の企業、特に地元の企業がグローバル IT パークの方たちとコネクしていただけるのかというのが課題だと思います。なかなか難しいみたいです。

(熊倉委員長)

間に入られることがあって、こんなふうだったら道があるかもしれないというアイデアがあればぜひ。

(マクレラン委員)

アイデアというか、日本で最近一緒にしたのは、六日町にある精密プラスチック機器を作っている会社の方でしたが、スリランカの大学からインターンに来る人たちが何人かいたそうです。ただ、その全然接点のない日本の企業が何で絡むのかなと不思議に思いました。ですが、面白いように飛びついてきた方々がいたみたいです。

(熊倉委員長)

おもしろいものには飛びついていくということはとても大切なことなので、それに臆病でないようなルートを作りたいですね。

では、このことについてはグローバル IT パークをもっと活用しようということ。

また、先ほど国際大学さんがハイブリッドから対面が中心になったとおっしゃったのですが、逆にいうと国際大学さんから全世界に向かってオンラインで授業が行われていたという事実があるわけです。そういうことを活用すれば、この場所から全世界に向かって、様々な会議なり知の集積なり情報交換ができるということをもっと PR していったらどうでしょうか。国際大学さんとグローバル IT パークを使えば、どこの日本の企業ともきちんと情報通信できますよと。ここへ企業を移りませんかというくらいの PR をしてもいいのではないのかと思います。考えてみてください。

では、2つめのプロジェクトについてご説明をお願いします。

**資料 2-2：雪の聖地「南魚沼」へこらっしゃい！南魚沼ブランドで進める産業振興プロジェクト
(腰越産業振興部長より説明)**

(熊倉委員長)

コロナ渦ということで、たいへん厳しい数値ではありますが。自転車のことについては令和3年度以降の新しい交付金事業の中にありますので、そこでもう一度皆さんと議論いたしましょう。

また、観光事業についてももう一つの事業がありますのでそこで議論することとして、それ以外の部分でスキー場でのワーケーションと様々な SNS 等による情報発信の部分で成果があったかどうかということについて、皆さんにご意見を頂こうと思います。

では、スキー場でのワーケーショントライアルに関わりまして、矢口委員からお願いします。

(矢口委員)

このワーケーションですが、実際に活動している内容は知っていました。ただ、市のお金と国のお金を使って実証事業をしたと思うのですが、今後これをどうしていきたいのか先行きが見えない事業だったのではないかというふうに周りの方から言われました。実際にうちにもワーケーションのためにいらっしゃる方もいるので、これを実証実験ではなくて、実際にした場合にいくらお金がかかって、それでもちゃんと人が来てもらえるかというところを実証する実験になっているのか、そこを説明していただきたいです。

(腰越産業振興部長)

この実証実験ですが、非常に短い準備期間の中で取り組んだものです。取り組むにあたって、スキー場の近くの宿を選定させていただいて、そこでワーケーションのツアーを組んでいただきました。ただし、実際にリモートワークをするとすると、それなりの Wi-Fi 環境や情報環境が必要になります。まずそれを整えていただくことが一つ。それから、ワーケーションを実際にやるとすると、一緒に取り組んでいただいた IT 企業さんからすれば、やはりずっと座卓で作業するわけにはいかないため、コンピューター用のデスクや椅子などの備品が必要となります。それらの備品は市で準備をさせていただいて、それを例えば今後各宿がワーケーションをするときに、いくつか貸し出すような取り組みができるかということを含めて実験しました。

Wi-Fi 環境や備品の調達、貸出等も含めて、それらができるかのトライアルとなりますが、これらは非常に利用者が少なかった実態があるため、そこに費用対効果が望めるかというところに改善の余地があるものと思っております。

(熊倉委員長)

矢口委員、当然ご意見があると思いますが。

(矢口委員)

Wi-Fi 環境に関しては、平成 15 年くらいに南魚沼市観光協会の方で各施設に導入してくださいという形で、今は南魚沼市の 7 割方の宿は環境を備えている状態だと思います。ただ、備品関係については、一週間机が必要になる等、そのレンタルの必要性を踏まえた上でこの事業を地域全体へ普及できるのかというところかなり難しいのではないかなと思います。この辺りをもう少し見直していただいて、実践していただきたいと思います。

(熊倉委員長)

マクレラン委員、同じようなご意見はありますか。

(マクレラン委員)

実は私は東京で 10 年ほどビジネスセンターというセクションの部長をしておりました。ビジネスセンターというのは地方にある会社が東京で拠点を持ちたいときに、事務所を借りて、電話等をあてがってもらうところです。そこでは皆さん名刺には東京千代田区の住所が書いてありますが、ただ本人は地方に住んでいるという状態でした。なので、このワーケーションはこの逆バージョンと言えると思います。泊まる所は宿屋さんで、昼間はレンタルオフィスと提携して、その施設で仕事をするというのもありかなと思います。

それから、東京にいる方々は私たちくらいの年齢になれば皆さんお金に余裕を持った暮らしをしているのですが、一般的に特に若者は狭いアパートで精神的に病んでしまっている人たちがたくさんいるかもしれない。ですので、逆手に取ったコロナ対策と申しませうか。こういう時

期だからこそ、この広々とした南魚沼の環境や立地的にも首都圏から近いということをもっと知ってもらって、活用してほしいと思います。宿屋や環境だけではなくて、食べ物もおいしいと思いますし、それからこのメディカルタウン、基幹病院や市民病院もあって充実していると思います。

一番最初に CCRC 構想ができた時に私は結構吠えました。東京からお年寄り連れてきても5年くらいしたら、南魚沼市は介護のお金を負担しなければならないと吠えていたのですけれど、今少しコロナの関係で方向が変わってきたのと、もしかしたら次の世代と一緒についてくるかもしれないということを考えると、まあ CCRC 構想もありかなという気がします。

(熊倉委員長)

羽吹委員、次お願いします。

(羽吹委員)

このワーケーショントライアル事業というのがよくわからないので何とも言えないのですが、これだけコロナ渦で SNS で検索している人がたくさん増えているというのは、やはり皆さん興味を持っているということだと思います。何かがある、いずれ来たいということいろいろ探しているのかなと思いますので、それをどんどん充実させるのはいいことだと思います。

もう一点、やはり今若い子はインスタグラムなどを使ってすぐその場でアップします。南魚沼市で検索することは、例えば観光協会のホームページを見るよりも、インスタグラムで検索した方が生のすごくいい状況をすぐ検索できます。このように若い人たちにどんどん検索してもらえような何かができればいいのではないかと思います。例えば、年間検索大賞みたいなので表彰するというのはどうでしょうか。たぶん若い人の方がそういう検索能力はとても冴えているので、こういった取り組みで人を呼ぶ力というのはできるのではないかと思います。やり方がどういったものかいいのかなか難しいですが、ガチガチにお金をもらって何かをやるよりも、若い人って気楽に発信するので、そういうのを逆手に利用するのもひとつかなと思います。

(熊倉委員長)

市の事業であっても今までと違うコストパフォーマンスを考えようと。勝手に人に参加させる方法も少し考えようと。というのが羽吹委員のおっしゃることだと思います。市長はそういう方ですので、おもしろい動きが出ていいのではないかと思います。

青柳委員、今の話を聞いてどうですか。

(青柳委員)

まだワーケーションということに関しては、我々の業界でもあまりリンクすることがありません。このワーケーションでこちらにおいでになる方はだいたい何日くらい前から申し込みがありますか。

(腰越産業振興部長)

今回のトライアルの場合は早ければ1か月以上前ですけど、やはり若い方というのは直前になってスケジュールが空いて、申し込まれる方が割といらっしゃいました。なので、千差万別といえば千差万別でした。年齢的には若い方が多かったです。

今回これはツアーという形で、リフト券をつけ、部屋とワーキングスペースを準備して、2泊と3泊だけでやりました。実際にこれは定着すれば、個人のスケジュールに合わせて長くできる

可能性はあるだろうと考えます。あとは受け入れ先の宿や施設の空き状況との比較になると思いますが。

(青柳委員)

ワーケーションを検討されている方は、宿はここはいいけど、ここは嫌だとか。そういうことはあるのでしょうか。

(腰越産業振興部長)

今回はそこを深掘りしてみたくて、スキー場のゲレンデ前というのをコンセプトに設定させていただきました。そこで働いて嫌になったらすぐにスキーに行っていたら。それは南魚沼市はスキー場が多くて、そこに宿泊施設が非常に多いことからその実証性を見てみたいというところから実施しました。

(熊倉委員長)

中島委員いかがですか。

(中島委員)

どこにいらっしゃるというのはあまり重要じゃなくて、その時間に本来の場所に繋がっていることが非常に重要なので、その意味では、リモートワークは昨年のコロナの影響で開始されたことですが、東京方面の会社さんは非常に重要視していると思っています。交通費を払わなくていいし、会社のオフィスは狭くてもいい。おそらくコロナが閉塞したとしてもリモートワークは一部の業界ではずっと続くのではないかなと思いますので、今年限り来年限りではなくておそらくずっと続けていけるものだと感じています。そういう意味ではこのトライアルは非常に有効性があるものだったのではないかなと思います。

SNS での情報発信についてですが、SNS はいったん軌道に乗ると勝手に増えてくれるものですので、最初の起爆剤をどうするか。そこさえ押さえて広がれば、あとは勝手に増えていくため、ぜひ活用していただきたいと思います。

来年、コロナが収束して世界中で皆さんうずうずしているのが、一斉に出てくると思います。それをターゲットにして、今年種をまくという取り組みが非常に大事だと思います。

(熊倉委員長)

大谷委員、いかがですか。

(大谷委員)

私もワーケーションというのはテレビで見るくらいなので、なかなかぴんとこないです。ですので、ここで一市民として教えていただきたいことは、ワーケーションに関して今南魚沼市として考えているのは、例えばテレビで紹介されるような先進地に負けないくらいまで頑張ろうというくらいの気持ちを持っているのか、それともこの交付金をうまく使ってある程度の平均値を目指そうというお考えなのか。

そこら辺の目指すところを教えていただかないと、逆に言うとおそらく一緒に協力してくれる宿や施設は不安を感じてしまうと思います。そのお考えというか、想像している姿みたいなのを教えていただけるとありがたいなと思います。

(熊倉委員長)

では、トライアルの結果も踏まえて、今年度以降どう考えているかというところを少し教えて

ください。

(腰越産業振興部長)

まず考えるに、ポストコロナの中でワーケーションやリモートワークがなくなることはまずないと思います。実際に今回トライアルを行い、アンケートを採らせていただきましたけど、非常に意欲は高いことはわかりました。

その他にも東京のベンチャー企業 50 社くらいに雪国観光圏さん等と一緒にアンケートを採らせていただきました。そうすると、現状ですでに八ヶ岳の麓などワーケーションをウェブサイト大きく載っけて、結構大々的にやっているところもありました。新潟県内を見ても妙高市さんはかなり備品も揃えて貸出等も行っているようです。やはり、そこに通用していかなければならないところもあるのでしょうか、一方で差別化も図らなければいけないということもあると思います。例えば雪がそうです。大々的にすることは当然将来的に必要な部分ではあるのですが、まず何を売り込んで誰に来ていただくかというところを捉えたうえで、後戻りなく進めていきたいと思っています。

(熊倉委員長)

トライアルの結果ここが売りになりそうだという感触はどうですか。

(腰越産業振興部長)

実際にスキー場等の施設を活用したワーケーションは売りになるだろうと感じています。

(熊倉委員長)

それをもう少し細かく皆さんが納得できる形に、また少しアンケート分析しておいてください。そして、皆さんに簡単に分析の結果をお知らせください。

続いて樋口委員をお願いします。

(樋口委員)

テレワークについては北里研究所の特に白金と相模原のキャンパスは非常に推奨しています。出勤 7 割減、一番少ないときは出勤 3 割で対応していました。

そこでの一番の悩みは、奥さんに会社に行けと言われると、居場所がない先輩が非常に多かったことですね。なので、このトライアルがどんな形で広報されているか。おそらくワーケーションをする個人に対する広報だったと思いますが、これを企業にターゲットを絞って広報するアプローチの仕方もあるのかなと思いました。その先輩方に、どこでやってもいいのなら新潟に来て温泉に入りながらやったらどうですかと言ったのですが、週 1 週 2 くらいの出勤がありますので、やはり個人というより企業にアプローチするのがいいのかなと感じました。

(熊倉委員長)

とてもいいキーワードを頂きました。企業、法人、団体に対して提案していくことはとても重要だと思います。

では、佐藤委員いかがでしょうか

(佐藤委員)

私からは SNS の関係をお話しさせていただきたいと思います。これは全国的な傾向だと思いますが、今まで紙物で情報発信していたものが、コンテンツを作ってデジタル化に移行し、紙はやめるといった形へ。デジタルというのは、例えばデジタルパンフレットや動画配信です。これら

を作るまではどこもやるのですが、その作ったものに対していかにネットユーザーに到達してもらうか、発見してもらうか。これが非常に私どもも常日頃悩んでいる問題です。そういった部分で、SNS はもちろん、今で言うとうーチューバー等発信力のあるインフルエンサーを上手に活用していかなければならないと思っています。

(熊倉委員長)

では、関副委員長中間まとめをお願いします。

(関副委員長)

この事業に関しては、コロナの影響を非常に受けた中で厳しい数値結果になっていますが、その中で急遽ワーケーションをやったことは、先ほどの事業の移住定住にも繋がってくると思います。私も週1回ウェブ会議がありますが、これはもう普通になってきました。皆さん操作やコミュニケーションのやり方も慣れてきて、今後すべてリモートになり、東京へ行く機会がなくなってしまうのではないかと思います。半分楽しみがなくなって残念みたいなどころもありますが、そこはスキーも絡めながら今後も伸ばしていくべきだと思います。

ただ、この事業はインバウンド観光を伸ばそうということがそもそもの目的となっています。2年前を思い起こしてもらおうと、観光はものすごく人手不足でした。今は皆さんその時のことを忘れてしまっているような気がします。ワーケーションも大事ですが、皆さんワクチンを打ち終わって人出が一気に跳ね返った場合のこと、アフターコロナを見据えたところをもう少し本気で考えていかないと、1年後にもものすごく人がまた足りない、受け入れも態勢ができていないということがあるかもしれないです。ぜひ、この当初の目的を今一度確認して、次のステップに進まなくてはいけないのかなと感じました。

(熊倉委員長)

インバウンドはともかくとして、主産業の1つである観光業をしっかり支えるという意味で、これからのデジタル化をどのようにうまく取り入れていくのか、人の流れを作っていくのか、このような機会にいろいろ意見交換をしていきたいと思っています。

時間がかかり経ってしまっているので、次の事業については報告だけで簡単に進めてください。

資料 2-3：中越文化・観光産業支援機構による歴史資源・行政視察を活用した広域観光

(腰越産業振興部長より説明)

(熊倉委員長)

この事業は私たちだけで評価しにくい話ですよ。最終的には長岡市さんにまとめていただいて、国に報告ということで。事業内容の確認ということでよろしいでしょうか。

資料 2-1 と資料 2-2 の事業については、様々な意見があって非常に前向きな提案がありました。そしてその評価について、外部有識者の評価としてそれぞれ②、③とし、本日出た様々な積極的意見を載せて、国に報告するということがよろしいですか。

(全委員)

異議なし

議題② 令和3年度地方創生推進交付金事業の概要について

(熊倉委員長)

令和3年度の新しい交付金事業について、まずご説明をお願いします。

資料3-1：みらいの雪国を創る人材育成及びしごと創生事業

(若井U&Iときめき課長より説明)

(熊倉委員長)

これはまだ一応報告というか提案ということですが、先ほどリモートワークやワーケーションについては様々なご意見がありましたので、それ以外の部分で皆さんからご意見を頂ければと思いますが、これは挙手をお願いします。

国との関係で、各事業間でお金の組み直しなど、重点の変更は可能ですか。

(若井U&Iときめき課長)

一応基本はこちらの形で進めたいと思いますが、令和4年度以降は反映させることは可能かと思えます。

(熊倉委員長)

令和3年度から令和5年度の3か年計画で、ほぼ毎年だいたい同じ額だと見ていいですか。その中での流用は令和4年度以降はありえると。

皆さんのお話でもワーケーションの話はかなり重視されていましたし、個人ではなくて企業向けにそれを求めていくべきという話もありました。今までやった事業に対して、特に移住定住者に関するアンケート分析をしっかりともらった上で、移住定住に繋げていくべきだというご意見が大変多かったので、令和4年度からはその辺にも重点を置き直した方がいいのかもしれない。

私が勝手にお話してしまいましたが、他の方どうですか。大谷委員どうぞ。

(大谷委員)

これは、補助率はどのくらいですか。

(若井U&Iときめき課長)

50パーセントです。

(熊倉委員長)

他にいかがですか。関副委員長。

(関副委員長)

南魚沼市のブランド化について、これからまた観光客が増える見込みの中で、雪室というのはすごくいいと思います。一方で自転車の取り組みもやっていますよね。そこで一つの案ですが、民間で造ってもらうか、それとも行政で造るとすごくお金がかかるかもしれませんが、誰もが入れる遊べる雪室というものをどこかに造るのはどうでしょうか。私も自転車をやりますが、ものすごく汗だくになります。これからの季節自転車で走った人に、雪室に入ってもらって涼んでもらう、そこでブランド化した雪室製品を買える、夏なのにスキー用品が売っていてウィンタースポーツ始めようかと思ってもらう。今ある雪室は、業者さんが造って、業者さんが使って、我々は見学ができるだけですよね。ではなくて、観光目当ての雪室を1つ、これは本物の雪室でなく

でもいいかもしれませんが、こういうものが1つあるとハブになるのではないかなと思いました。

(熊倉委員長)

今のご意見とても重要だと思います。今までやってきた取り組みをバラバラではなく、きちんと組み立てて、全体の強みにしていくこと。それからやはりこちらから外に発信していくことはできますが、よそから人が来るために物が動くような仕組みを作っていくこと。ブランドの販路拡大というのは、むしろ東京の人や企業をこちらに来させるようなコンサルティングをした方がいいのかなと思います。その辺を少し考えてみてください。

(若井 U&I と きめき 課長)

実際にこの前大手旅行会社さんとお話しする機会がありまして、関副委員長と全く同じ話をされていました。たまたま本日関係課が揃っていますので、これから連携しながら進めていきたいというふうに考えています。

(熊倉委員長)

よろしくをお願いします。それでは2つめの事業についてのご説明をお願いいたします。まさに自転車の話です。

資料 3-2：雪国で共に創るスポーツを通じた健康増進プロジェクト

(西潟生涯スポーツ課長より説明)

(熊倉委員長)

このことについて、ご意見やご提案があればお願いいたします。佐藤委員お願いします。

(佐藤委員)

この自転車の取り組みにつきましては、昨年度末3月29日だったと思いますが、2市1町連携自転車活用推進協議会というものが立ち上がりまして、私ども南魚沼地域振興局も含めて一緒に取り組みをしているところでございます。ただ、この協議会にはなかなか予算がない中で、それぞれの構成団体ができるところを取り組んでいこうというスタンスで動いています。

今年度私たちは地域振興事業で予算をつけまして、この2市1町の取り組み、先ほど説明にあった資料3-2の(1)の③のところになります。この部分に予算を投下して一緒に取り組んでいこうということで動いているところでございます。

やはり情報発信については課題やハードルがあると思いますが、先ほどの資料2-2の2ページ目、E-7のRIDE-ONプロジェクト推進事業の所に、MINAMIUONUMA SPORTS CREATORSとあります。これは南魚沼市さんで、今までスポーツ関係の情報については、それぞれ所管するセクションがバラバラで発信していたものを、一つに統合して当該サイトで発信していこうということで取り組まれているものだと思います。11月から運用開始し、3月末までの5か月間で閲覧者が1,889人、SNSのフォロワー数が1,670人とございます。SNSはそれなりの数だとお見受けしますが、大元のサイトの閲覧数があまりにも少ないのかなと思います。せっかく肝いりでやっている部分もあるかと思いますが、この数字をどう評価されているのかというところをお伺いしたいです。

また、この MINAMIUONUMA SPORTS CREATORS に市の観光協会へのサイトへのリンクは張ってあるのですが、逆に市のサイトあるいは観光協会のサイトに MINAMIUONUMA SPORTS CREATORS のリンクは張っていないとお見受けしますが、その辺含めましてもう少し連携をしていく必要があるのかなと思っておりますで、ご意見お伺いしたいと思います。

(西潟生涯スポーツ課長)

MINAMIUONUMA SPORTS CREATORS ですが、昨年 11 月から開設しまして、まだ手探り状態でございます。我々もイベント告知等ができれば、閲覧数が出てくと思いますが、コロナ渦ということで、なかなか情報を発信するテーマがないのが現状でございます。冬期間においてはスキー場のサイトにリンクを張ってもらうなど、こちらから積極的には動いている部分がありますが、開催するイベントがないということが一つ課題かなと思います。我々もせっかくこのサイトが出来たので、関係者には積極的な活用を促したいと思っております。

また、観光という部分ですが、確かにまだ各ホテルや旅館には周知ができていません。これは、まず第一にスポーツ関係の事業所をお願いに上がったためです。当然皆さん観光のサイトも見ると思っていますので、スポーツだけではなく、横の連携で観光協会も含めた中で、閲覧数が増えるように努力していきたいと思っております。

(熊倉委員長)

事業が動いてはじめて需給関係が生まれるわけですから、難しい問題だと思います。やはり事業が動くことが第一だろうと思います。

予定した時間になりましたので、まだ様々なご意見があろうかと思っておりますが、次の議題に移りたいと思っております。

議題③ まち・ひと・しごと創生総合戦略 全体の進捗状況について

(企画政策課 見留企画主幹)

資料 4 により令和 2 年度末現在の進捗状況を説明

(熊倉委員長)

これはきちんと議論しだすと 1 時間以上かかりますので、とりあえず本日は報告ということで、では、最後の議題に。

議題④ 次期委員の委嘱について

(高橋企画政策課長)

次期委員への再任を依頼

(熊倉委員長)

私の独り言だと思って聞いていただきたいのですが、これまで皆さんと一緒に議論重ねてきて、何とかいい形が見えてきましたので、委員の皆さんどうぞ再任のご承諾を頂きますよう重ねてお願い申し上げます。好きな意見を言い合える会だと思って、ぜひ続けていただければと思います。

(高橋企画政策課長)

議事の方は以上でございますが、最後に関副委員長から一言いただきたいと思います。

(関副委員長)

皆様大変お疲れさまでした。本日議論した一つ一つのことを、それぞれ本気で進めていかなければならないと思いました。資料2-1に2060年に人口43,000人(第1期南魚沼市人口ビジョンの目標値)を維持ということを目標として書いてありましたが、人口の年齢構成的に今は逆ピラミッドのところ、おそらく40年後はまた少し違う形になっていると思います。そのときに、活力ある人たちが強い地域を残しておくというのがすごく大事だと思います。私の孫の世代が活躍している時代かなと思いますけども、その人たちに本当にいいものを残してくれたと言われるように、一つ一つ本気で取り組んでいかなければならないと思います。

それと、委員の再任について私は承諾とさせていただこうと思いますが、私はここ7年くらいで他にも様々な市の会議に出席させていただいております。これは本当にありがたいことだと思っておりますが、やはり民間の立場から辛口の意見をどんどん出して、そこを行政側が耳が痛いながらも、このポイントはすごく大事なと意見を取り入れて、真剣に取り組んでいただけるということが、我々のやりがいでもあり、言いがいだと思います。市長から部長、課長の皆さんまで参集いただき、まさにその働きで市民の生活が変わるような方々のいる中で、我々は意見が言えます。また委員を継続させていただくからには、やはりいいポイントがあれば市で議論をしていただいて、1個でも2個でも我々市民の思うことを採用していただけることが、この委員の再任の承諾に繋がっていくと思いますので、ぜひ大変おこがましいですが、これからもよろしく願いいたします。

それでは、ただいまをもちまして第10回南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議を終了いたします。皆様、お疲れさまでした。

午後4時30分終了